

| コード | 名称 | 区分 | コード | 名称 |
|-------------|---------------------------|-------------|-------|------------|
| 事業名 | 773 教職員研究研修事業 | 会計 | 01 | 一般会計 |
| | | 款 | 10 | 教育費 |
| | | 項 | 01 | 教育総務費 |
| 基本施策 | 31 個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める | 目 | 03 | 義務教育振興費 |
| | | 細目 | 409 | 教職員研究研修経費 |
| 行革大綱の重点事項番号 | | 7 | 細々目 | 51 教職員研修経費 |
| 担当部課 | コード | 450300 | 担当者氏名 | 澤田 剛 |
| | 名称 | 教育委員会 学校教育課 | | 連絡先 |

事務事業の概要 (Plan)

| | |
|-----------|--|
| 対象(誰を、何を) | 市内小中学校教職員、幼稚園教職員 ※対象件数 小中学校36校 1幼稚園 教職員 |
| 成果(どうする) | 各学校・園の教育活動が活発化し、教職員の指導力が向上します。 |
| 根拠法令・要綱等 | |
| 開始年度 | 平成 16 年度 |
| 終了年度 | 平成 年度 |
| 関連事業 | |
| H21 事業内容 | 1. 部会別教育研究会 2. 職場教育研究交流会 3. 子どもサマーフェスティバルの開催 4. 夏季教育講演会の開催 5. 研究指定校研究推進事業 6. 社会科副読本の作成 7. 伊賀地区教科用図書採択会議の開催 |
| 社会情勢の変化等 | |

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

| | |
|--------------|----|
| 1 建設用地 | |
| 2 建設面積(延床面積) | |
| 3 規模・構造 | |
| 4 総事業費 | 千円 |

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

| | |
|-----------|----|
| 1 運営主体 | |
| 委託先 | |
| 2 配置人員 | 人 |
| 3 年間運営費 | 千円 |
| 4 市内の類似施設 | |

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

| 活動指標 | 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|---------------|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | H20 | H21 | H22 | H23 |
| 研究指定校発表会の開催校数 | | 校 | 目標 | 3 | 3 | 3 |
| | | | 実績 | 3 | | |
| 夏季教育講演会の参加者数 | | 人 | 目標 | 650 | 700 | 700 |
| | | | 実績 | 700 | | |

| 成果指標 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|----------------------|-----|----------------------------|----|-----|-------|-------|-------|
| | | | | H20 | H21 | H22 | H23 |
| 県や全国規模の研究会で発表や提案する人数 | | 県内や全国に伊賀市の学校教育成果を発信する機会とする | 人 | 目標 | 20 | 22 | 23 |
| | | | | 実績 | 21 | | |
| 子どもサマーフェスティバルの参加者数 | | 研究部会の研究成果を市民に発信する機会とする | 人 | 目標 | 1,000 | 1,130 | 1,160 |
| | | | | 実績 | 1,100 | | |

| 投入コスト | H20 決算 | | H21 決算 | | H22 当初予算 | | H23 当初要求 | |
|--------------|------------|------------|------------|------------|----------|--------|----------|--|
| | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | |
| 直接事業費計(A) | 6,407 | 7,015 | | 8,789 | | 39,800 | | |
| Aの財源内訳 | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | 300 | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 一般財源 | 6,407 | 6,715 | 8,789 | 39,800 | | | | |
| 事業投入人件費(B) | 0.2人 1,440 | 0.2人 1,440 | 0.2人 1,440 | 0.2人 1,440 | | | | |
| フルコスト(A)+(B) | 7,847 | 8,455 | 10,229 | 41,240 | | | | |

事務事業の評価 (Check)

| 判断の基準(該当項目に○をつけてください) | | 備考欄(特記事項) |
|---|---|-----------|
| 必要性 | 法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 | |
| | 個人(セーフティネット)を整備する事業 | |
| | 特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 | |
| | 事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 | |
| | 市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 | |
| | 市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 | |
| | 国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 | |
| | 市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 | |
| | 民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 | |
| | 受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 | |
| 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 | | |
| 【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 | | |
| 研究・研修により教職員の資質を向上させることが、子どもたちの学力の向上をはじめとして、伊賀市の教育力の向上につながる。 | ○ | |
| 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 | | |
| 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 | | |
| 有効性 | 事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 | ○ |
| | 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 | ○ |
| | サービス水準や対象を見直す余地がある。 | |
| 達成度 | 当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 | |
| | 予算の繰越の有無 無 | |
| | 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】 | |
| 効率性 | 他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 | |
| | 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 | |
| | 【事業名】 | |
| | 受益者負担を求めることができる事業である。 | |
| | 全体コストにおける負担構成は適正である。 | |
| | コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。 | |

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

| | |
|----------|---|
| 改善策 | 指定校での研究内容をより充実させるとともに、その成果を広め、各学校における指導方法の改善等にいかす。 |
| 昨年度の取組状況 | 【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 研究指定校研究推進事業として、3校が2年間の指定研究に取り組んだ。学校が公開研究会を行い、研究成果を発信した。市内各校から発表会に参加し、その学校の取組に学ぶことができた。 |

今後の方向性 (Action)

| | |
|------------------------------|---|
| 担当課長氏名 | 仁保晋作 |
| 事業の方向性 | 【方向性】 現状維持 【理由】 教職員の資質向上が子どもたちの学力をはじめとする能力の向上につながるため。 |
| 現時点における課題、その他 | これまで行われてきた教職員研修が、教職員の資質の向上やひいては児童生徒の学力の向上等へと生かされているか検証しにくい。 |
| 課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする) | 本年度、すべての学校(園)に、地域の方々による学校関係者評価委員会を設置し、各校の教育活動について外部の評価をいただきます。その評価により、学校・地域・子ども・教員の課題を明らかにして、「学校マニフェスト」によって取り組むことを焦点化します。 |